

■ 平成 21 年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等） 1,056 点

寄贈資料受入れ総数（同上） 13,365 点

計 14,421 点

整理・保存 収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録作成等

閲 覧 利用者 延 4,879 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

区分	事業名	実施時期 (日数)	観覧者数 (人)	展覧会の概要
	常設展 北海道の文学	通年 (307 日間)	11,427	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料 1,350 点を公開している。(◎展示構成を次頁に掲載。)
	特別企画展 没後 10 年…三浦綾子／ いのちへの愛	8 / 1 (土) ～ 9 / 27 (日) (50 日間)	3,310	旭川市生まれの小説家・三浦綾子 (1922～1999) の宗教精神に支えられた「いのち」への深い眼差しを紹介した。『氷点』『塩狩峠』『天北原野』『銃口』などの長編小説を中心に、自伝的作品なども含め全 6 章に分けて展示した。
	企画展 語り、継ぐ。 アイヌ口承文芸の世界	5 / 30 (土) ～ 7 / 20 (月祝) (45 日間)	2,205	アイヌ民族の理解に不可欠である口承文芸に焦点を当て、今日の活動の礎となった金田一京助、久保寺逸彦、知里真志保らの先達による膨大な録音テープ、調査ノート、写真等を紹介した。知里真志保生誕百年にも因む展覧会。
	企画展 サハリンを読む 遙か [樺太] の記憶	11 / 21 (土) ～ 1 / 17 (日) (44 日間)	2,270	日露の近代史の中で特異な位置を占めるサハリン (樺太) について、関連する多くの文学作品や、映像、写真、地図などにより、近代史、民族問題、異文化との交流などの多彩な観点から紹介した。
	企画展 藤倉英幸と 旅のイメージ	1 / 30 (土) ～ 3 / 22 (月祝) (45 日間)	2,540	岩内町出身の藤倉英幸 (1948～) による JR 車内誌「THE JR Hokkaido」の詩情豊かな北海道の表紙絵を中心に、同誌を飾る渡邊俊博のイラスト、小檜山博のエッセイなどを紹介し、広報メディアによる「旅」のイメージのありようを探った。
貸館	チカupp美恵子 刺繍作品展	1 / 21 (木) ～ 1 / 27 (水) (6 日間)	939	アイヌ模様の刺繍家・チカupp恵美子 (1948～2010) の作品展。刺繍 70 点、イラストや著作などを展示。

【常設展プレミアム】

常設展プレミアム

特集「フロンティア」— 60-70 年代の北海道

4 月 11 日 (土)～5 月 17 日 (日) 32 日間 観覧者数 1,077 人

1960 年代から 70 年代にかけて発行されていた北海道電力株式会社の広報誌「フロンティア」を紹介し、武者小路実篤、田辺聖子、谷川俊太郎ほか多彩な執筆陣の直筆原稿、イラスト原画などを展示し、当時の世相をふりかえった。

【文学館アーカイブ (新着資料) コーナー】

・第 1 期展示 [4 月 1 日 (水)～6 月 30 日 (火)]

北の放送文化 HBC 映画社 記録映画台本

シナリオ作家・森道夫氏から寄贈された北海道放送映画 (通称・HBC 映画社＝現 HBC フレックス) によって制作された 1960 年以降の記録映画の台本 110 冊 (「郷土と自衛隊」、「札幌オリンピック作戦」、「知床の詩」など) を紹介。加えて、当館所蔵の放送作家・佐々木逸郎氏 (1927～1992) 旧蔵資料を展示した。

・第2期展示〔7月1日(水)～9月30日(水)〕

最期の手紙 1923年の有島武郎と波多野秋子

2008年12月に購入した作家・有島武郎(1878～1923)と、1923(大正12)年、軽井沢の別荘浄月庵で武郎とともに命を絶った、婦人公論の記者・波多野秋子(1894～1923)の往復書簡を含む二人の死の前後の資料を展示した。

・第3期展示〔10月1日(木)～12月27日(日)〕

北海道のミステリー作家たち ― ミステリー王国北海道

日本ミステリーの草創期を支えた水谷隼や久生十蘭ら函館出身の作家たちや、佐々木譲(夕張市生まれ)、今野敏(三笠市生まれ)、東直己(札幌市生まれ)、馳星周(浦河町生まれ)、矢口敦子(函館市生まれ)、佐藤友哉(千歳市生まれ)ら第一線で活躍する作家たちなど、北海道出身のミステリー作家を当館所蔵の図書資料を通して紹介した。

・第4期展示〔1月5日(火)～3月31日(水)〕

文人たちの筆跡 ― 当館蔵「色紙」紹介

中村武羅夫色紙(07年度購入)、船山馨色紙(07年度購入)、森田たま色紙(07年度購入)、石森延男色紙(08年度購入)、高橋揆一郎色紙(08年度受贈)、大野風流色紙(09年度受贈)、中村二恵色紙(09年度受贈)、高安國世色紙(09年度受贈)、向坂一郎色紙(09年度受贈)など近年収集したものを中心に当館所蔵の貴重な色紙を展示した。

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎『札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文学的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

〈北海道の短歌〉〔山名康郎〕

◆北海道歌壇の動き 山下秀之助、酒井廣治、小田観螢、中城ふみ子ほか ◆来道歌人 斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柵二ほか ◆口語短歌 鳴海要吉、石川啄木ほか ◆アイヌの歌人 バチラー八重子、遼星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、白田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 斎藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和前期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担金事業、※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	観覧(参加)者 実績数(人)	備考
フィルムレクチャー	『わが愛北海道』に観る 1960 年代の北海道 (解説：当館学芸員)	5/3(日・祝)	21	特集「フロンティア」関連事業
講演と対談	「アイヌ口承文芸のなかの“恋愛”」(対談：本田優子氏、中川 裕氏)	5/30(土)	95	アイヌ口承文芸展関連事業
ミニ講座	「久保寺逸彦文庫の資料について」(講師：道立アイヌ民族文化研究センター職員)	6/6(土)	25	〃
ミニ講座	「アイヌ口承文芸を聞く」(講師：道立アイヌ民族文化研究センター職員)	6/13(土)	42	〃
シンポジウム	「口承文芸の魅力——アイヌとその隣人」(講師：秋原眞子氏ほか)	6/14(日)	168	〃 会場：北海道大学
文芸対談	「語ること、聴き取ること——『アイヌ神謡集』を手がかりに——」(講師：横山むつみ氏、池澤夏樹氏)	7/12(日)	95	〃
講演会	「三浦綾子とその時代」(講師：山内亮史氏)	8/1(土)	48	三浦綾子展関連事業
朗読と演劇	「母 舞台上に生きる三浦綾子の文学」(脚本・演出：森 一生氏)	8/29(土)	224	〃 会場：北翔大学ポルトホール
講演会	「妻・綾子と歩んだ 40 年」(講師：三浦光世氏)	9/5(土)	87	三浦綾子展関連事業
文学散歩	行程：三浦綾子記念文学館、旭川六条教会、塩狩峠記念館 (ガイド：片山晴夫氏、神谷忠孝氏)	9/12(土)	37	〃
市民参加型事業	「私の好きな三浦綾子作品」(三浦綾子作品一つを取り上げ、エピソードを投稿。作文を掲示し紹介。)	三浦綾子展会期中	103	〃
ギャラリートーク	「物語る庭で根ほり葉ほり」(講師：小林重予氏)	10/10(土)、17(土)、31(土)、11/1(日)、8(日) 5日間	56	ファミリー文学館関連事業
クロストーク&朗読会	『鬼のいる庭』ができるまで」(講師：小林重予氏、岡田哲也氏)	10/24(土)	79	〃
市民参加型事業	「想いの接ぎ木——連なる言の葉」(小林作品から絵と言葉をつなぎ合わせて物語を作る。作品を掲示し紹介。)	小林重予展会期中	375	〃
文芸講演会	「『樺太文学』の現在」(講師：川村 湊氏)	11/21(土)	56	サハリン展関連事業
トンコリ演奏会	サハリンアイヌの弦楽器トンコリのソロライブ(演奏：トンコリ奏者・OKI)	12/20(日)	72	〃
フィルムレクチャー	「北極光」(原作：村上元三、1941 年作品)の上映と解説(解説：当館学芸員)	12/27(日)	64	〃
市民参加型事業	「あなたのサハリン」(思い出の又は想像上のサハリンについて投稿。作文を掲示し紹介。)	サハリン展会期中	53	〃
オープニングパーティー	藤倉英幸展オープニングパーティー(参加者：藤倉英幸氏及び同展覧会関係者、来館者)	1/30(土)	89	藤倉英幸展関連事業
展示室講話	「藤倉英幸の世界——貼り絵でつづる四季の旅情」(講師：当館学芸員)	2/6(土)、27(土)、3/20(土)	105	藤倉英幸展関連事業
展示室講話	「The JR Hokkaido」誌面にみる北海道の鉄道風景(講師：当館学芸員)	2/20(土)、3/6(土)		
アートトーク	「北を描く旅人たち——雑誌づくりのオモテとウラと」(お話し：藤倉英幸氏、渡邊俊博氏、北室かず子氏)	2/13(土)	108	〃
※ 連続朗読会	「三浦綾子の世界——朗読とチェンパロの調べに乗せて」(朗読：松井信子氏、演奏：明楽みゆき氏)	9/4(金)、9/5(土)	170	

教育普及事業

事業項目		事業名	実施時期(日数)	観覧(参加)者 実績数(人)	備考
※	朗読とギター	「朗読とギターの夕べ」(朗読:菅村敬次郎氏、ギター演奏:平佐修氏)	6/5(金)	70	
※	ウィークエンド・カレッジ	前期・「北海道の歌人を語る」等5講座 後期・「モーツァルトの楽しみ」等4講座	前期・5～9月の土、日 後期・11～3月の土、日	718	
※	ロビーコンサート	木管五重奏(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン) (演奏:森圭吾氏ほか札幌楽団員)	11/4(水)	51	
	夏休み文学道場	「中・高生のための創作講座」 (講師:斉藤征義氏、小笠原治嘉氏)	7/29(水)～7/31(金) 3日間	25	
	ファミリー文学館 展覧会	「小林重予展 ― 物語る庭 ―」 *併催「夏休み小中学生短歌コンテスト作品展」「夏休み文学道場作品展」	10/10(土)～11/8(日)	1,934	ファミリー文学館 事業
	ファミリー文学館 ワークショップ	「作って投函 往来葉書」 (講師:小林重予氏)	10/10(土)、11(日)、 17(土) 3日間	35	〃
	ファミリー文学館 事業	「第4回夏休み小中学生短歌コンテスト」(審査員:内田弘氏、阿知良光治氏、当館職員2名)	応募期間 7/7(火)～8/31(月) 表彰式 10/17(土)	1,277	〃
※	わくわく こどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに 親子で参加	16回開催	688	
	映画鑑賞会	「姉妹」 (原作:畔柳二美、1955年作品)	5/24(日)	84	
	映画鑑賞会	「私は貝になりたい」(原作:橋本忍・加藤哲太郎、1959年作品)	8/9(日)	84	
	映画鑑賞会	「氷点」 (原作:三浦綾子、1966年作品)	9/20(日)	76	三浦綾子展関連事業
	映画鑑賞会	「樺太 1945年夏 氷雪の門」 (原作:金子俊男、1974年作品)	11/29(日)	96	
	映画鑑賞会	「砂の器」 (原作:松本清張、1974年作品)	2/28(日)	101	
	文字・活字文化の 振興事業	「北海道の出版文化史 ― 昭和時代の出版事情を中心に」 (講師:出村文理氏)	10/25(日)	19	
※	市町村連携事業 「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催 で講演会等を開催した。	18開催	1,190	
※	文化施設連携事業	「カルチャーナイト2009」 展示室の夜間開館等を実施	7/17(金)	336	
※	小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(307日間)	296	
	文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(307日間)	4,879	
	文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(307日間)	1,558	
※	文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	892	
教育普及事業参加者 計				16,581	

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 常設展プレミアム「特集『フロンティア』」関連資料調査
- ② 企画展「アイヌ口承文芸の世界」関連資料調査
- ③ 特別企画展「三浦綾子/いのちへの愛」関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「小林重予展」関連資料調査
- ⑤ 企画展「サハリンを読む ― 遙か[樺太]の記憶」関連資料調査
- ⑥ 企画展「藤倉英幸と旅のイメージ」関連資料調査
- ⑦ 特別企画展・企画展の図録作成に要する調査
- ⑧ 次年度の常設展プレミアム関連資料調査
- ⑨ 蘭 繁之の関連資料調査
- ⑩ 葛飾北斎の関連資料調査
- ⑪ しかけ絵本の関連資料調査
- ⑫ 脚本・台本の関連資料調査
- ⑬ 吉村 昭の関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 旬アングル 代表 鉢呂勝徳
「山田大輔&吉住和倫ジョイントリサイタル」
(平成 21 年 7 月 3 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ② ギター大好き恵子ママのホームページ
「GW ギターコンサート前夜祭」
(平成 21 年 5 月 1 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ③ 小林多喜二『蟹工船』講演会実行委員会
「小林多喜二『蟹工船』講演会」
(平成 21 年 10 月 10 日 かでる 2・7 ホール)
- ④ 中川町教育委員会
「斎藤茂吉記念第 16 回中川町短歌フェスティバル」
(平成 21 年 6 月 1 日～10 月 31 日 中川町教育委員会)
- ⑤ 絵本・児童文学研究センター
「児童文学ファンタジー大賞第 15 回記念 第 14 回文化セミナー『書くよろこび』」
(平成 21 年 11 月 15 日 小樽市民センター)
- ⑥ 栗山町教育委員会
「山内栄治展」
(平成 21 年 12 月 10 日～27 日 くりやまカルチャープラザ「Eki」)
- ⑦ 財団法人北海道文化財団
「若手芸術家発表促進事業〈夢の畑シリーズ〉弦楽カルテット in 北海道文学館」
(平成 22 年 3 月 21 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑧ 財団法人北海道生涯学習協会
「ほっかいどう学」かでる移動講座 ※平成 22 年度事業
(平成 22 年 6 月 6 日、7 月 4 日、8 月 1 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑨ 加藤周一ドキュメンタリー映画上映実行委員会 ※平成 22 年度事業
「加藤周一ドキュメンタリー映画『しかし、それだけではない』上映会」
(平成 21 年 5 月 9 日 共催ホール)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の、地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、JR 札幌駅、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、新聞紙上で有料広告を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 77 号(5 月 23 日)、第 78 号(7 月 17 日)、第 79 号(11 月 20 日)、第 80 号(2 月 5 日)を発行し、上記と同様の各施設や文学館会員に配付したほか、館内に備え置いて来館者の利用に供した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 企画展「アイヌ口承文芸展」図録の刊行
- ② 特別企画展「三浦綾子展」図録の刊行
- ③ 企画展「サハリン展」図録の刊行
- ④ 企画展「藤倉英幸展」図録の刊行
- ⑤ 研究紀要「資料情報と研究 2009」の刊行
- ⑥ 「平成 20 年度年報」の刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 「北海道文学大事典」(補遺版)の編集作業
標記補遺版(人名編)の平成 23 年度発行を目指して編集作業を行った。
- ② 博物館実習生の受入
博物館実習生—16 名(7 月～3 月、一人 2 週間)